

## ステロイド外用剤を使うと、 白内障になっちゃうの？

ステロイド外用剤が一般に使用されるようになった1950年代以前から、アトピー性皮膚炎で白内障を生じる患者さんがいることが知られていました。ステロイド外用剤が広く使用されるようになってからも、その発生率は変わっていません。今日では、アトピー性皮膚炎で白内障が生じるのは、かゆみのために目の周りをこすったり、たたくなど、主に外傷性の原因によるものと考えられています。

ステロイド外用剤が目の中に入らないように上手に使用して、目の周りの症状をよい状態に保ち、刺激しないことが大切になります。



病・医院名



11月2日は皮膚の日

ご存知  
ですか？

11月12日(イイヒフ)は日本臨床皮膚科医会により「皮膚の日」と定められ、日本皮膚科学会とともに、この日を中心に皮膚病の相談会や講演会を開催するなどの活動を行っています。

私たちは、人々のより健やかな生活をめざす「皮膚の日」を応援しています。

鳥居薬品株式会社

MHN100-1306P  
ANTTE002D

# ステロイド外用剤の ウソとホント



監修 原田昭太郎 NTT東日本関東病院特別顧問

解説 川島 眞 東京女子医科大学皮膚科教授

## はじめに

最近、「ステロイド外用剤だけは使いたくない」とおっしゃる患者さんが少なからずおられます。「ステロイドを使うと強い副作用が出てこわいから」というのが、その主な理由のようです。

この小冊子では、ステロイド（ステロイド副腎皮質ホルモン）外用剤に関する情報が氾濫しているなか、患者さんがステロイド外用剤について認識されていることや、不安を感じていることを取り上げ、果たしてそれが事実であるかどうかを、わかりやすく解説してあります。ステロイド外用剤について正しい知識が得られれば、あなたが感じている漠然とした不安や心配はなくなるでしょう。

つらい症状を少しでも早く改善し、快適で健やかな毎日を送れますように、また、あなたにとって最適な治療を受けられることを願っております。

原田昭太郎 NTT東日本関東病院特別顧問

知って  
いますか？

# ステロイド外用剤の ウソとホント

ステロイド外用剤を安全に、そして効果的に治療に使用するためには、このおくすりの特性についてよく知り、正しく使用することが何よりも大切です。あなたはステロイド外用剤について、どのくらいのことを知っていますか。あなたが知っていることが正しいかどうか、誤解をしてはいないか、次の7つのクイズに答えて、確かめてみてください。



以下のクイズ①～⑦に記された内容について、

クイズ① ステロイド外用剤を一度使用すると、やめられなくなる。

○か×か?

正解は6ページ

クイズ② ステロイド外用剤を中止すると、リバウンドが起こる。

○か×か?

正解は7ページ

クイズ③ ステロイド外用剤を使用すると、骨がボロボロになる。

○か×か?

正解は8ページ

クイズ④ ステロイド外用剤を使用すると、ニキビ、おできなどができやすくなる。

○か×か?

正解は9ページ

「ホント」か「ウソ」か、教えてください。

クイズ⑤ ステロイド外用剤を使用すると、色が黒く残ってしまう。

○か×か?

正解は10ページ

クイズ⑥ ステロイド外用剤は皮膚に蓄積する。

○か×か?

正解は11ページ

クイズ⑦ ステロイド外用剤を長期間使用すると、血管が浮いて、皮膚が薄くなる。

○か×か?

正解は11ページ



あなたの心配	ステロイド外用剤を使うと、成長障害が起こると聞いたけど……。	9
	妊娠中や授乳中にステロイド外用剤を使ってもいいじゃないか?	10
どんなこと?	ステロイド外用剤を使うと、白内障になっちゃうの?	12



ウソ

ステロイド外用剤を一度使用すると、  
やめられなくなる。

上手に使用して症状を改善することができれば  
おくすりをやめることもできます。

ステロイド外用剤は炎症を抑えるおくすりで、病気そのものを治すものではありません。医師は、患者さんの症状に合わせてステロイド外用剤を使用するかどうかを決めますが、病気によっては、おくすりをすぐにやめることのできる場合がたくさんあります。

その逆に、長期にわたって治療を続けなければならない病気もあります。しかし、このような場合も、ステロイド外用剤だけで治療を続けるわけではなく、また使用量も、治療の開始時に比べれば、次第に少量ですむようになるのが普通です。

長期にわたる治療が必要な場合は、副作用が起らないように、おくすりを上手に使っていきながら、症状を改善していきます。



ウソ

ステロイド外用剤を中止すると、  
リバウンドが起こる。

使用法が適切でないと、  
症状が悪くなることもありますが、  
それを“リバウンド”とはいいません。

慢性の病気では、症状が落ち着いているようにみえても、病気としては続いているわけです。したがって、自分勝手に判断して、ステロイド外用剤をはじめとした治療を中止すると、病気は再び勢いを増して、時にはとてもひどい症状になってしまいます。これをステロイド外用剤のリバウンドと一般的に呼んでいることがありますが、これは間違いで、中止の仕方が適切でないために、単にもとものの病気が悪化したものです。

リバウンドとは、ステロイドの内服や注射での治療を続けているときに、突然中止することによって、もともとの病気の症状以外に、全身的な強い症状が現れることをいい、ただ単に病気が悪化することをいうわけではありません。

ステロイド外用剤でいわれているリバウンドのほとんどは、もともとの病気の症状が強くなったものと考えられます。症状を悪化させないためには、自分の勝手な判断でおくすりを中止することなく、医師の指示どおり、上手に減らしていくことが大切です。

ステロイド外用剤を使用すると、骨がボロボロになる。

**塗りぐすりであるステロイド外用剤で、骨に悪い影響が現れることはほとんどありません。**

ステロイドの内服や注射の治療を長い間続けると、体内のステロイドの量がある程度高い状態が持続し、骨がもろくなってしまうことがあります。

しかし、ステロイド外用剤はそもそも、全身への影響を減らし、なるべく皮膚だけで作用するようにつくられたものです。通常の使用量では、体内に入るのは微量ですから、ステロイド外用剤の使用によって、骨に悪い影響を与えることはほとんどありません。

ステロイド外用剤を使用すると、ニキビ、おできなどができやすくなる。

**おくすりを塗った部分の免疫力が低下するため、ニキビ、おできなどができることもあります。**

ステロイド外用剤を使用した場合、全身的な問題はありませんが、おくすりを塗った部分の皮膚の免疫力が低下します。そうすると、その部分に細菌、カビ、ウイルスがついて、ニキビやおできができやすくなるのはホントです。

このような状態になると、いままでとは違った症状が現れてくるので、「症状が変わったな」と感じたら、すぐに医師に相談してください。

早いうちにおくすりを中止して、適切な治療を行うことにより、短期間のうちに治すことができます。



**ステロイド外用剤を使うと、成長障害が起こると聞いたけど……。**



乳幼児にステロイドを内服や注射で長期間使用した場合には、成長障害が起こる可能性があります。しかしステロイド外用剤の場合は、医師の指示どおり通常の塗り方をしていれば、体内に入っていく量はわずがですので、そのような心配はほとんどありません。

そうはいつても、とくに乳幼児の場合は、十分注意しながらおくすりを使っていく必要があります。ステロイド外用剤を大量・長期に使用しなくてすむように、医師の指示をきちんと守ることが肝心です。



ウソ

ステロイド外用剤を使用すると、色が黒く残ってしまう。

**使用したから黒くなるのではありません。炎症のあとが一時的に黒くなることもあります。時間がたてば薄くなっていきます。**

日焼けの後に肌が黒くなるように、皮膚の炎症が治まった後に色素が残り、肌が黒くなることがあります。ステロイド外用剤を塗った後に色が黒くなったように感じるのは、炎症の赤みで見えなかった色素が、ステロイド外用剤の使用により炎症が治まることで、かえって目立ってくるからです。その色素も時間とともに徐々に薄くなってきます。

ステロイド外用剤などをなるべく早く用いて炎症を治め、再び悪化しないよう、気をつけることが色を残さないためには大切です。

## 妊娠中や授乳期に ステロイド外用剤を 使ってはいけませんか？



妊娠中のおくすりの使用は、胎児への影響を考えると誰もが不安を感じるものです。しかし、ステロイド外用剤を必要とするような皮膚の症状がある場合、おくすりを使わずに症状を悪化させてしまうと、不眠などの原因になることもあり、妊娠への悪影響も心配されます。産婦人科医や皮膚科医に相談しながら、症状に合わせたステロイド外用剤を上手に使っていくことが大切です。

あなたの心配  
どんなこと？

ウソ

ステロイド外用剤は皮膚に蓄積する。

**ステロイド外用剤が皮膚に蓄積することはありません。**

ステロイド外用剤が皮膚に蓄積するために、いろいろな副作用が現れるのではないかと心配する人がいますが、これは正しくありません。

もしステロイド外用剤が皮膚に蓄積するのであれば、使用を中止してもしばらくは効果が持続するはずですが、実際は、ステロイド外用剤を突然中止することで症状が悪化してしまう事実からも、皮膚に蓄積していないことがわかります。



ホント

ステロイド外用剤を長期間使用すると、血管が浮いて、皮膚が薄くなる。

**医師の指示を守っておくすりを上手に使えば避けることもできます。**

おくすりの吸収がよい顔面や、お年寄りの皮膚に、長期間にわたって強いステロイド外用剤を使用し続けると、確かに血管が浮いてきたり、皮膚が薄くなったりすることもあります。しかしこのような副作用は、適度な強さのステロイド外用剤を、適切な期間、おくすりを休む期間を設けながら使用していけば、避けることもできます。

自分勝手な判断で、いつまでも続けて使わないようにしてください。